

「平和を求めて」～平和な世の中にするために、今自分たちに何ができるか～

本単元で育成を目指す資質・能力

【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】

単元について

(1) 単元観

本単元は、本質的な問い「平和とは何だろう」を基に構想し、ヒロシマだけでなく広地区においても空襲による大きな被害があったこと等の歴史を調べ、平和の尊さや平和の価値を見直す視点から、自ら設定した課題を解決していくことを通して、本中学校区で設定した資質・能力【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【学びに向かう力・人間性】を育成することをねらいとしている。

本単元では広地区にある戦跡をきっかけとして、戦争はその昔に遠く離れた地で起きた出来事として歴史を捉えるのではなく、身近なところで起きていた風化させてはならない戦争の傷跡として捉え直していく。その探究活動を通して、自らの地域との関わり方を見つめ直したり、ヒロシマ・呉市・広地区の一員としての自らの生き方を問い直したりすることが期待できる。

また、平和を求めて実際に世界で活動されている方との対話をきっかけに、平和の求め方に対する視野を広げていく。その思考過程を通して、答えのない問いと向き合い、解決に向けて試行錯誤しながら社会に参画したり自己の生き方を振り返ったりすることが期待できる。

このような学びの姿は、授業者が設定した本質的な問いを基にした探究的な学びを具現化するものであり、本中学校区で設定した資質・能力の育成につながると考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまでの学習を通して呉市や広地区における戦争に関わる歴史について各自テーマをもって調べてきた。また、被爆証言の動画を視聴したり、本やインターネットで調べたりしたことから平和について考えてきた。しかし、広地区でも激しい空襲があり戦争に苦しんでいた事実を知ったものの、表面的な知識理解であることや、歴史の背景にある当時を知る方々の思いや願いについては実感の伴った理解は難しい。さらに、「平和＝戦争のない世の中」と捉えている児童もおり、平和を求めるにあたっての視野が狭いことがいえる。

9月に実施した意識調査の各項目において、肯定的に回答した児童の割合は下の表のようになっている。

①	「なぜだろう」と思うことから、自分の課題を立てて授業に臨んでいる。	90%
②	課題について、「なぜだろう」「やってみたい」と思う。	100%
③	課題解決をするために、進んで資料や情報を集めている。	80%
④	授業では、友達と話し合うなどして自分の考えを深めたり広げたりしている。	90%
⑤	自分の考えを他の人に説明することができる。	61%
⑥	学習後も「もっと調べたい」「もっと考えてみたい」と考えている。	96%
⑦	今の日本は平和だと思う。	45%
⑧	戦争がなくなれば平和な世の中になると思う。	32%
⑨	平和な世界は必ず実現すると思う。	55%
⑩	平和な世の中にするために、自分から意識して行動していることがある。	68%

これらの結果から、なぜだろうと疑問に思った課題に対して主体的に取り組むことができている。

ることが分かる。一方で、課題を解決するために必要な資料を集めることや、解決に向けて考えていく過程で自分の考えを友達と交流して深めたり視野を広げたりすることに課題があるといえる。これらのことから、資料を集めて考えが深まる経験や、必然性のある意見交換を重ね、児童に達成感や必要感をもたせる必要がある。

また、今の日本は平和とは言えないと感じているものの、意識して行動することがあまりできていないという実態から、平和の実現のために戦争以外の視点からも取り組んでいけることに気がついていない児童も多くいるといえる。

(3) 指導観

指導にあたっては、次の2点に留意する。

【児童が自ら問いを見いだすためのしかけ】

資料や情報を集める必然性や自分の考えを人に説明する必然性を生むには、児童と立てる課題設定の質を更新していく必要があると考える。そこで、単元を通して本質的な問い「平和とは何だろう」と問い続け、考え続けていく。さらに「平和な世の中にするために、今私たちに何ができるか」を考えて実行することを単元末のゴールに設定し、大きく以下の2点のしかけを意識して単元を構想する。

1点目は、単元の導入や単元間、単元末における平和に対する概念を言語化し、学習を進めていく内に平和への概念が広がっていくことをメタ認知できるようにしておく。「平和とは何か」を言語化し、そして、広地区や呉市においても空襲による大きな被害を受けた歴史があることを知り、その傷跡や戦跡があることに気付かせていく。その過程で、呉空襲の被害や当時の生活の様子など、各自の関心に沿って問いをもてるようにしていく。また、戦争当時の生活の様子を宮迫豊子さんから聞く場を設定し、戦争を経験された方の平和に対する思いや願いにふれ、自身の考えや行動について見つめ直す問いを見いだせるようにしかける。

2点目は、ANT-Hiroshima理事長の渡部朋子さんから様々な活動や日本と世界の現状について話を聞く場をもち、対話する場を設定することで、平和とは何かを多角的に捉え直していけるようにする。平和を求めてできることは、戦争について学んで発信することだけではないことに気付き、平和を求めることに対する視野を広げることができるようにしかける。

【平和への捉え方や自分の生き方について、考えを伝え合い認め合う場の設定】

全体の共通課題（平和とは何か）と個別の課題（各自の問い）をもって探究していくことで、一つの課題に対して多様な考えや意見が生まれるようにする。さらに、それらを共有する場や、対話する場を単元の中で複数回設けることで、平和への捉え方を生涯にわたって問い続けていく姿勢や、多様な意見を認め合う素地を育成できると考える。

また、平和に対する考え方や平和を求めて考えていくべきことは多様にあり、その根拠も様々である。このことは、児童が自身の考えを伝え合う必然性が生まれる場である。よって本学級の児童の課題でもある、「自分の考えを他の人に説明すること」も育成できると考える。

単元の目標及び評価規準

【単元の目標】

広地区や呉市の戦争に関わる歴史などを調べる活動を通して、ヒロシマやナガサキ、世界に目を向け、平和に対する人々の思いや願いを理解するとともに、環境問題、コロナ禍から見えてきた貧困の差など、戦争以外の視点からも平和に対する自分自身の考えを形成していく。さらに、課題を設定したり課題解決のための必要な情報の集め方を検討したりしながら、今の自分にできることは何か積極的に考え、友達と協働して考えを構築し、実行できるようにする。

【評価規準】

知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
① 広地区・呉市も空襲を受けたという歴史を知り、身近な地でも過去に戦争による被害を受けていたことを理解している。 ② インターネットや本を活用したり、インタビューやアンケート等を行ったりして、課題に応じた方法で調査を実施している。 ③ 平和への意識の高まりは、学校生活や人間関係を築いていく上で生かせることがあると気付いている。	① 平和な世の中にしていくために何ができるかについての自身の課題を明確にもち、解決に向けて見直しをもっている。 ② 平和の概念や広地区・呉市の歴史について見直すために必要な情報について、手段を選択して多様な方法で収集している。 ③ 課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、友達との対話を通して比較・分類・関連付けをしたりしながら解決に向けて考えている。 ④ 平和な世の中にしていくために今自分たちにできることを考え、目的に合わせて分かりやすくまとめている。	① 広地区・呉市の戦争に関わる歴史について知り、平和を守り継いでいくという目的に向け、設定した課題の価値を理解している。 ② 広地区の戦争の歴史や、過去と自分とのつながりに気付き、平和のためにできることを考えようとしている。 ③ 戦争について知ることに加えて、平和を求めてできることは他にもたくさんあることに気付き、視野を広げて自分にできることを考えようとしている。

指導と評価の計画

指導と評価の計画（全42時間 本時27/42）

〈本質的な問い〉 平和とは何だろう。				
次	(時)	学習内容	評価規準	
			評価規準（評価方法）	資質・能力
単元前		○広戦跡めぐりをする。 (遠足・Google earth)	○広地区の戦跡に関心をもっている。 (行動観察・発言)	学びに向かう力・人間性②

第一次「広地区・呉市の戦争について知ろう」(二十時間)

【単元を貫く課題】今、自分たちができることは何だろうか。

一
(2)

課題の設定

○広島市だけでなく、広地区でも戦争による大きな被害があったことを受け、友達と対話・共有しながら全体の課題と個別の課題を設定する。

○広地区や呉市における戦跡について詳しく知ることや、平和について考えていく必要性について課題を発見し、解決に向けての見通しをもっている。
(ワークシート, 発言)

学びに向かう力・人間性①

二
(4)

情報の収集

○広地区・呉市の戦争に関する歴史について調べる。

○広地区や呉市における戦跡から、身近な地でも過去に戦争による被害を受けていたことを理解している。
(ロイロノート, 発言)

知識・技能①

三
(2)

整理・分析

○集めた情報をどのように整理・分析したらよいか考え、自分の課題解決に向けて焦点化する。

○課題の解決に必要な情報を取捨選択しながら解決に向けての方法を考えている。
(ロイロノート, ワークシート)

思考力・判断力・表現力③

四
(2)

○個別の課題と集めた情報を交流し、友達の視点も踏まえて整理・分析する。

○友達との対話を通して比較・分類・関連付けをしたりしながら情報を取捨選択している。
(ロイロノート, 発言)

思考力・判断力・表現力③

五
(1)

課題の設定

○さらに必要な情報は何かを考えたり、個別の課題を捉え直したりし、新たな課題をもつ。

○平和な世の中にしていくためにも広地区の戦争の歴史の中でも何について探究していくか考え、自身の課題を捉え直している。(ワークシート)

思考力・判断力・表現力①

六
(3)

情報の収集

○どのように情報を集め直せば良いか考え、視点をもって情報を収集する。

○自己の課題を追究していくためにはどのような方法があるか見直し、情報収集し直している。
(ロイロノート, ワークシート)

思考力・判断力・表現力②

○被爆者の宮迫豊子さんの証言を聞く。

○平和への意識をもちながら課題に応じた方法で情報を収集している。
(ワークシート)

知識・技能②

七
(5)

まとめ・創造・表現

○調べたことや考えたことをロイロノートにまとめ、グループで交流する。

○自分の考える平和の概念と調べてきたことを、目的に合わせて分かりやすくまとめている。
(ロイロノート等)

思考力・判断力・表現力④

八
(1)

振り返り

○友達のまとめや考えと自分のもの进行比较しながら振り返る。

○友達の発表と自分のもの进行比较したり関連付けたりしながら、自分のプレゼンや発表の仕方を振り返っている。
(ロイロノート, ワークシート)

思考力・判断力・表現力③

		<p>まとめ・創造・表現</p> <p>○クラス全体に発表する。</p> <p>振り返り</p> <p>○個別の課題に加えて、全体の課題に対する振り返りも行う。</p>	<p>○友達のアドバイスを取り入れ、自分の考えがより伝わるよう工夫して発表している。(ロイロノート, 行動観察)</p> <p>○広地区の戦争の歴史や、過去と自分とのつながりに気付き、学んできたことを基に平和の概念を捉え直している。(ワークシート, 発言)</p>	<p>思考力・判断力・表現力④</p> <p>学びに向かう力・人間性②</p>
<p>第二次「本当に平和なのだろうか」(十時間)</p>	一 (2)	<p>○ANT-Hiroshima 理事長の渡部朋子さんと対話する。</p> <p>課題の設定</p> <p>○戦争について知ること以外にも平和を求めて考えていくべきことは何かを考える。【本時】</p> <p>情報の収集</p> <p>○新たに生まれた個別の課題に対して必要な情報を収集していく。</p> <p>整理・分析</p> <p>○個別の課題と集めた情報を交流し、友達との視点も踏まえて整理・分析する。</p> <p>まとめ・創造・表現</p> <p>○調べてわかったことを、自分の伝えたい相手に沿った表現でまとめる。</p> <p>振り返り</p> <p>○学習を振り返って、自分の考えを書く。</p>	<p>○戦争について知ることに加えて、平和を求めてできることは他にもたくさんあることに気付いている。(発言, ワークシート)</p> <p>○情報を整理し、個別の課題を更新する視点をもつことができている。(ワークシート)</p> <p>○インターネットや本の活用、インタビューやアンケート等を行ったりして、課題に応じた方法で調査を実施している。(行動観察)</p> <p>○課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、友達との対話を通して比較・分類・関連付けをしたりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>○平和な世の中にしていくために今自分たちにできることも考え、下級生や渡部さん等、相手意識をもってまとめることができる。(ロイロノート)</p> <p>○平和への意識の高まりは、学校生活や人間関係を築いていく上で生かせることがあると気付き、自分の言葉で学習内容を振り返っている。(ワークシート)</p>	<p>学びに向かう力・人間性③</p> <p>思考力・判断力・表現力①</p> <p>知識・技能②</p> <p>思考力・判断力・表現力③</p> <p>思考力・判断力・表現力④</p> <p>知識・技能③</p>
	二 (1)			
	三 (2)			
	四 (2)			
	五 (2)			
	六 (1)			

第三次「今、自分たち「できる」とは何だろう」(八時間)

一
(7)

実行

○できることをグループ毎に考え、実行していく。

【活動】

- ・募金
- ・ポスター

【発信】

- ・歌を作成
- ・紙芝居を作成
- ・タブレットを活用
- ・SNSを活用

振り返り

○活動や考えの変容など、学習を振り返り言語化する。

二
(1)

○平和な世の中にしていくために今自分たちにできることを考え、目的に合わせてまとめたり発信したりして、行動に移している。

○「平和とは何か」を再度問い直し、これまで追究してきたことや友達の考えから学んだことをもとに、自分の言葉で表現している。

思考力・判断力・表現力④

知識・技能③

本時の展開

(1) 本時の目標

平和には多様な考え方や捉え方があることに気づき、新たな課題を見付けることができる。

(2) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (◇)	評価規準 (評価方法)
<p>【課題設定】</p> <p>1 渡部朋子さんとの対話を振り返る。</p> <p>○渡部さんの話を聞いて、心に残ったことは何ですか。そこからどのようなことを考えましたか。</p> <p>2 めあてを確認する。</p>	<p>◇用紙に自身の振り返りを簡略化・図式化したものを書き出してタブレットで撮影しておき、クラスで共有できるようにしておく。</p> <p>◇児童の思考の流れを大切にしながら、戦争の歴史について学ぶこと以外にも平和を築き守っていくために必要なことがあることに気付かせていく。</p> <p>(予想される反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和への願いをもって活動をされている大人がたくさんいることが分かったね。僕たちが今調べたり考えたりしていることも平和への第一歩になるということが分かったね。 ・活動がたくさんあって驚いたね。核兵器について発信していく活動もそうだけど、絵本を多言語に翻訳する活動や環境を守る活動、アニメーションを作成など、コロナ禍でもできることをされているんだね。 ・多様性を認め合えることが大事ってお話されてたね。それってどうしていけばいいんだろう。 ・教育を受けることができるって大切なことなんだね。それから、ご飯を食べることができたり家で安心して家族と過ごすことができたりするのも平和だからこそできることなんだね。 ・それって当たり前のことだと思っていたけど、そうではない国もあるんだね。 ・日本だってもしかしたらこれから先、どうなるかわからないかもしれないよ。 ・偏った情報、自分の知りたい情報しか得ようとしていないと言われてドキッとしたよね。確かにこのままだと、危ない状況になってしまうかもしれないね。 	
<p>めあて 平和を求めて、さらに考えていくべきことは何だろう。</p>		
<p>【学び合い】</p>	<p>◇必要に応じて個人で考える時間を設ける。</p> <p>◇座席表を活用して児童の思考の流れを把握し、必要に応じてファシリテートする。</p>	

	<p>◇友達の考えと自分の考えを比較・分類しながら考えられるよう、構造的な板書にする。</p> <p>◇似た考えや意見の場合は、児童の発言をつないでいけるよう意図的に指名する。</p> <p>(予想される反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・核兵器が存在するから。話し合うとずっと平行線で、戦争することでしか決着がつかないから。 ・自分の考えが正しいという気持ちが強いから。 ・言葉が通じないと、気持ちも通じにくいから。 ・傷つけ合うことが平気になってしまっているから。 ・自分のことしか考えられなくなっているから。 ・地球上の資源が限られていて、取り合いになっているから。 ・作物が育たない地域があり、食べ物の奪い合いになってしまっているから。 ・病気がはやって、どんどん人が亡くなって、物も足りなくなってストレスがたまっているから。 ・見方を変えればどれも正解なんだけど、その出来事を捉える人や立場によって納得できないものになるから。 <p>◇これまでの個別の課題が更新されるよう、必要に応じて教師側から揺さぶりがけたり問いかけたりする。</p>	
<p>【振り返り】</p> <p>3 学習を振り返り、新たな課題を設定するとともに、今後の学習の見通しをもつ。</p>	<p>(期待する振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争について知り、平和の大切さを発信していくことばかり考えていたけれど、それ以外にも取り組めることがあると思いました。 ・これまでは、平和に必要なのは戦争をなくすことだと思って自分にできることを考えていたけれど、それだけではないと思いました。私は、平和とは毎日安心して生活できることだと考えが変わったので、「環境を守るためにできること」も新しく考えていきたいです。 ・僕は、平和とは違う文化や考え方も認めて、お互いに尊重し合うことだと思いました。それができれば戦争も起きなくなるし、平和になると思います。だからこれからは、5年生の時に調べたことをもう少し詳しく調べ直して「日本と異なる文化をどう認め合っていくか」について考えてみたいと思います。 	<p>情報を整理し、個別の課題を更新する視点をもつことができている。【思考力・判断力・表現力①】(ワークシート)</p>



【成果と課題】

1. 児童自身が課題を更新し続け、本質的な問いに迫っていくことができた。

年度当初、児童は平和に対して表面的な捉えであった。しかし、調べたり対話したりすることで、考えが深まり視野も広がった。徐々に児童の思考や行動に変化が現れ、学び方が変容すると共に本質的な問いに迫ることができた。以下は第2次末の児童の振り返りである。

①私が今考える平和とは、悲しみがなく、言葉で分かる合い、みんなが平等に暮らせ、みんなが自然を大切に、環境がしっかり守れることだと考えます。

②1学期の最初は、平和について、戦争がなく、争いがないことが平和と考えていたけど、朋子さんの話を聞いて、平和とはみんなが平等で、持続可能な社会が実現できて、平和に向けて、一人一人が動くことだと考えるようになった。

③2学期に調べたり考えたりして、気付いた平和は、みんなが平等で、貧困などで苦しんでいる人がいない、差別がないことだと気付きました。

④一学期と比べて、調べたことをもとに、行動しようとするようになっていきました。そして、色々な人の話をしっかりと読んで考えを深めていくようになりました。

だれもが幸せにらせて、きもちよくさせる世界がなことはせず、だれがなにをやっても笑えて、一人一人が暮らす中で困るようなことがないこと。

1学期 = 17年かや戦争がなくなれば平和

朋子さんの話を聞いて、日本に行、た戦争だけでなく世界を見て、社会的なもんだい、かんきょうに対する問題などの関心が大切だとした。そこから、だれもが幸せできもちよくさせる世界がどうしようとした。

社会のもんだい、かんきょう問題はしらべていたけど、SDG、など、今取り組んでいることについて気づいた、今まで調べただけだけど行動、実こうしないと、いけないこと、いけないこと、気づき、行動のなかみについても考えないといけないことに気づいた

1学期と考え方がちがって、今まで、調べてまとめることを中心にしていたけど、今は、調べた上でどんなことをしたらいいかも考えながら行動すること中心になった。調べ方は、今まで、ネットだけ、たけど、今は、じ、さい活動している人の話を聞いたり、ネットの行われてることについてしらべるようになった。また、ほかの人の意見についても考えるようになりました。

【A児】

①調べ学習や対話を通して、本質的な問いに対する考えが変容している。

【学びに向かう力・人間性】

②ゲストティーチャーとの対話を通して、考えたり調べたりする視点を変容している。更に、行動を起こすことの必要性を児童自ら実感し、考え方が変容している。【思考力・判断力・表現力】

③多様な視点から考え直し、1学期の自己課題を更新して新たな課題を設定している。それが、最初の課題よりも本質に迫るものとなっている。【思考力・判断力・表現力】

【B児】

①調べ学習や対話を通して、本質的な問いに対する考えが変容している。

【学びに向かう力・人間性】

②ゲストティーチャーとの対話を通して、考えたり調べたりする視点を変容している。更に、これまでの方法だと何が足りないのかに気づき、新たな自己課題を設定することができている。【思考力・判断力・表現力】

③行動という視点から自己の学びを振り返り、課題解決のためにどのような行動をとるべきかを焦点化して思考を深めている。

【思考力・判断力・表現力】

④何かをまとめて発信すること以外にも、課題解決における行動の仕方があることに気づき、新たな学び方を習得している。【知識・技能】

今自分が考える平和は、皆が少しでも、「幸せ」と思い、希望を持ち続け、一人ひとりが環境を守れることだと考えます。

最初は、戦争が無ければ平和... だけでないけど、何が分からない。だったけど、朋友さんの話したと、未来を変える。つまり、持続可能な社会に視点を変えるのだと気づきました。

2学期に、調べたり、考えて、気づいたことは、調べたり、考えるだけでなく行動するべきだと気づきました。

1学期と比べて、自分は、考え方の視点だたり、行動する、つなりで調べる。平和に対する考え方が、変り、たなと、ふり返り、て思いました。

だから、これから、地域の活動にはげみ、人と発言し合おうと思ひます。

私が考える平和とは、差別がなく、みんな笑顔で支えあえる世界だと思ひます。

一学期の最初は、戦争や争いがないことが平和だと思ひ、ていたけど朋友さんの話を聞いて、SDGsや世界の現状について気にするようになり、世界は不平等であることがわかりました。そして、平等だけでなく貧困などのいろいろな問題があったので、SDGsの小さなことでもとりこんでいきたいです。

2学期では、自分たちが想像する世界にするために、自分ができることを考えました。想像した世界は助けあいや公平性のあるほう易を行うなどをして想像した世界を作れることがわかりました。

一学期と比べていろいろな人の意見をきくことで自分の考えと比べて視野が広くなることがわかりました。昔のことを調べるだけでなく、とりくみも考えるようになりました。ネットにあがったニュースを全部うのみせず、これは本当かどうかを考えるようにかんばりたいです。

① 1学期は行動力するより言調たりして考えようが大切と思ひていたけど、いまは行動力できることは行動力して行くのが大切だと「わかりました。なので言調たりして考えるだけでなく、自分が行動力できることは行動力みんなの仲かぶるようかんばりたいです。

【C児】

①調べ学習や対話を通して、本質的な問いに対する考えが変容している。

【学びに向かう力・人間性】

②ゲストティーチャーとの対話を通して、視点を変えて物事を捉え直すことが大切だと気づき、他の場面でも活用できる学び方を習得している。【知識・技能】

③自己の学びを振り返り、課題解決に向けての行動が足りていないことに気づき、考え方や調べ方などの学び方が変容している。【知識・技能】

④自分自身の生活に立ち返り、学んだことを活かした活動や行動を考えて実行しようとしている。【思考力・判断力・表現力】

【D児】

①調べ学習や対話を通して、本質的な問いに対する考えが変容している。

【学びに向かう力・人間性】

②ゲストティーチャーとの対話を通して、戦争以外の世界的な問題も平和を揺るがす原因だと気づき、新たな自己課題を設定することができている。【思考力・判断力・表現力】

③他者との対話を通して視野が広がることを実感し、思考が深まり変容している。

【思考力・判断力・表現力】

④インターネットによる情報収集のメリットとデメリットに気づき、様々な方法で情報を収集すると共に取捨選択する姿がみられた。

【知識・技能】

【E児】

①学び方や考え方が変容している。【知識・技能】

②実社会での出来事と日常生活を行き来しながら思考し、行動に表そうとしている。

【思考力・判断力・表現力】

これらの児童の振り返りにも現れているように、学習過程において、個々の資質・能力が顕在化されていったことも成果である。学び方、他者との関わり方、思考の深まり、表現方法の広がりなどが、「平和を求めて」という題材をきっかけに変容していったことは大きな成果であるといえる。

2. 実行場面における行動の焦点化が不十分であった。

児童の願いとして、絵本・漫画・紙芝居・歌・ポスターにして発信、植林活動、募金活動、海外の方との対話などが挙がり、それら全てをグループに分かれて実行していった。相手意識をもって作成したり準備を進めたりしていったが、十分な練り合いができずに物だけができあがっていくグループもあった。課題を解決するために、その行動が本当に適切かどうかを吟味したり絞ったりする時間も必要であった。

3. 単元構想や時数の見直しが必要である。

児童が自ら問いを見いだすためのしかけは適切であったが、平和への捉え方や自分の生き方について、考えを伝え合い認め合う場の設定はさらに工夫が必要である。共通課題と個別課題のバランスや、それらの追究にかかる時間も含めた見直し、さらには教師の働きかけについても検討していく必要がある。